

令和3年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和4年3月 9日
函館市立中部小学校

1 本年度の重点教育目標

まなびあう子 ～ 自分の考えを伝え、認め合い、ともに学ぶ力の育成

2 本年度の取組の重点

○ 授業で生徒指導 ○ 危機管理の徹底
○ 心を耕す取組の充実 ○ 包括的なサポートの充実

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
確かな学力	○ 一人一人の興味関心を生かした指導を行う	A	「TT指導」「習熟度別学習」「個に応じた支援・援助」等効果的な実施	a	A	・児童一人一人に応じた指導をしている様子が参観を通して見られました。 ・個々の学力・理解度に合わせたグループ別学習や放課後学習の指導などをして下さっており、子供達のフォロー体制に感謝しています。 ・ICT 端末活用で自分の考えたことを発信する力と相手の考えを聞く力がより深まればと思います。
	○ 互いの考えを交流し互いの良さを学び合う場を工夫した指導を行う	B	全教育活動を通して言語活動の充実	a	A	
		A	一人一台端末の効果的な活用と実践	a	A	
	○ 一人一人が主体的に学ぶことができるような課題の設定や学び方について自ら選択する場を工夫した指導を行う	B	プログラミング教育、キャリア教育、伝統や文化に関する教育活動	a	A	
豊かな心	○ 自己肯定感を高めるキャリア教育や情報モラル教育、豊かな感性や感動する心情を養うアウトリーチ事業など、心を耕す取組の充実を図る	B	モラルや道徳性の育成	a	A	・毎朝行っている児童たちの立ち止まり挨拶は素晴らしいと思います。 ・読書習慣がなかなか身に付かないようで、図書館の利用UPがカギかと思っています。地域・CSを巻き込んで活動できれば・・・。（コロナの状況が辛いですが）
		A	特別活動や外部団体等との関連、図書館の積極的な利用等を図り、豊かな心を育む体験活動の充実	a	A	
		B	「考える道徳」「議論する道徳」の授業、家庭や地域との連携を深める取組	a	A	
健やかな体	○ 家庭への啓発を継続的に行い、望ましい生活習慣の定着を図る	B	「早寝・早起き・朝ご飯」「ノーテレビタイム・ノーゲームタイム」等の取組をはじめとする望ましい生活習慣定着に向けた取組の充実	a	A	・子供たちだけでは、取組できない課題ですので、家庭を巻き込む方法を探さないと必要になると思います。 ・家庭でノーTVデー→本を読もう!!
	○ 生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育成しながら、体力の向上に取り組む	A	自ら進んで運動に取り組む等の授業改善	a	A	
	○ 自らの健康を適切に管理し、改善を図るための意思決定ができる資質・能力の育成する	A	計画的な保健学習や保健指導、食育全体計画に沿った食育等の充実	a	A	
特別支援教育	○ 特別支援学級や通級指導教室を有する専門性を生かした指導の充実を図る	A	専門性を生かした指導方法や校内体制の充実、ケース会議やサポート委員会の有効活用	a	A	・ことばの教室を上手く活用しているようなので、他校にも広まるといいです。
	○ サポート委員会、市巡回指導、ダイサービス等の福祉関係、児童相談所、SC、SSW等の外部関係機関との連携を密にし、包括的に子どもの学習や生活をサポートする体制の充実を図る	B	交流及び共同学習の充実、個別の指導計画作成、教室環境などのUD化の推進	a	A	
		B	関係機関と連携し指導方法や校内体制を充実、適切な就学に向けた組織的・計画的な対応、不登校への対応等に切れ目のない指導體制の構築	a	A	
危機管理	○ 本番を想定した訓練や防災マニュアルを見直す等を通して、子どもの命を守るための危機管理を徹底する ○ 保護者・児童・地域から信頼される学校であるために、全教職員が法令を遵守する強い意識をもちコンプライアンスに努める	A	「学校安全計画」を基にした安全管理の徹底	a	A	・コロナで、学校に地域が関わることが難しいですが「遠くから」見守る、サポートする方法を一緒に考えていくことができればと思います。
		B	児童が自ら危機を回避することができる安全指導の推進	a	A	
		A	日常的に「報告・連絡・相談・確認」の徹底、迅速かつ適切な組織的対応	a	A	
教育環境	○ ①自己存在感を与える②共感的な人間関係を育成する③自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助する。3つの視点に留意して指導することで支持的風土を育む	B	全教育活動において教師と児童、児童相互の良好な人間関係を深め、支持的風土を築く学級経営	a	A	・コロナ禍でも、できる方法を考えていく必要があると思います。
		B	業務の効率化改善等を組織的・計画的に推進し、子どもと向き合う時間の確保	a	A	
	B	CSを核とした異校種間、保護者や地域との連携	a	A		
	○ 「地域とともにある学校づくり」を目指し、中部小CS化を推進する					

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。